

其ノ後ニ此ノ下衆共、何態ヲ此レハ爲ルゾト見レバ、此ノ食ヒ散シタル瓜ノ核共ヲ取り集メテ、是ノ習シタル地ニ植ツ、其ノ後チ程モ无ク、其種瓜ニテ二葉ニテ生出タリ、此ノ下衆共此レヲ見テ、奇異ト思テ見ル程、其ノ二葉ノ瓜、只生ヒニ生テ這凝ヌ、只繁リニ繁テ花榮テ瓜成ヌ、其ノ瓜只大キニ成テ、皆微妙キ瓜ニ熟シヌ、其ノ時ニ此ノ下衆共此レヲ見テ、此ハ神ナドニヤ有ラムト恐テ思フ程ニ、翁此ノ瓜ヲ取テ食ヒテ、此ノ下衆共ニ云ク、主達ノ不食ザリツル瓜ハ、此ク瓜作り出シテ食ト云テ、下衆共ニモ皆食ハス、瓜多カリケレバ、道行ク者共ヲモ呼ツ、食ハスレバ、喜テ食ヒケリ、食畢ツレバ、翁今ハ罷ナムト云テ立テ去ヌ、行方ヲ不知ラズ、其ノ後下衆共、馬ニ瓜ヲ負セテ行カムトテ見ルニ、籠ハ有テ其ノ内ノ瓜一ツモ无シ、其ノ時ニ下衆共、手ヲ打テ奇異ガルコト无限シ、早ウ翁ノ籠ノ瓜ヲ取り出シケルヲ、吾等ガ目ヲ暗マシテ不見セケル也ケリト知テ、嫉ガリケレドモ、翁行ケム方ヲ不知ズシテ、更ニ甲斐无クテ、皆大和ニ返リテケリ、道行ケル者共此ヲ見テ、且ハ奇ミ、且ハ咲ヒケリ、下衆共瓜ヲ不惜ズシテ、二ツ三ツニテモ、翁ニ食セタラマシカバ、皆ハ不被取ザラマシ、惜ミケルヲ翁モ慥テ、此モシタルナメリ、亦變化ノ者ナドニテモヤ有ケム、其ノ後チ其ノ翁ヲ、遂ニ誰人ト不知テ止ニケリトナム語リ傳ヘタルト也、

〔撰集抄<sup>四</sup>〕高野參事附骨にて人を造る事

同比<sup>○治承二年九月</sup>高野の奥に住て、月の夜比には、或友達の聖ともろともに、橋の上に、行合侍て、なごめながめし侍しに、此聖京になすべき態の侍とて、情なくふり捨てのぼりしかば、何となくおなじくうき世をいとひ、花月の情をもわきまへらん、友も戀しく覺しかば、おもはざる外に、鬼の人の骨を取集て、人に作なす様、可信用のおろく、語侍しかば、其まゝにして、廣野に出て、骨をあみ連ねて、造て侍れば、人の姿には似侍しかども、色もあしく、すべて心もなく侍き、聲は有ども、絃管の聲のごとし、げにも人は心がありてこそは、聲はともかくにもつかはるれ、たゞ聲の出べき